



天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。
イザヤ四十二章5、6節

土台となる知恵

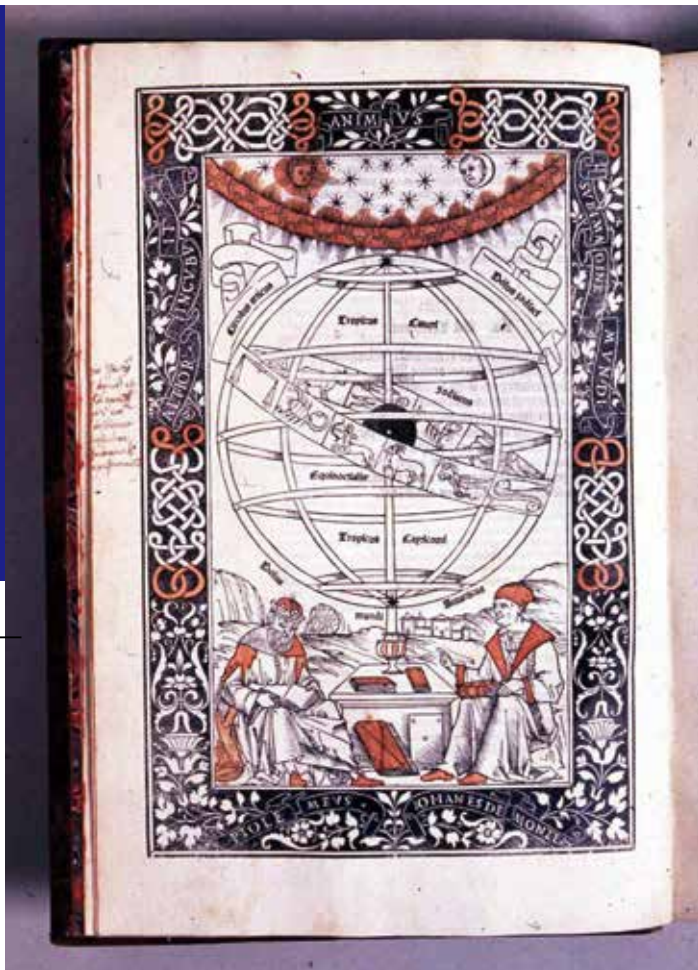
ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

知恵の初めに、 知恵を得よ。

箴言4章7節

天文学の世界では、ローマ帝国の時代にプトレマイオスが書いた『アルマゲスト』が天体の理だと信じられ、天動説がヨーロッパで受け入れられていました。しかしコペルニクスが「天体の回転について」を出版して地動説が取って代わりました。(本文2Page)

『アルマゲスト』→



科学は万能か？

私が青年期を過ごした20世紀は、科学万能の風潮が根強い時代でした。1985年にはつくば科学万博も開催され、まるで科学が明るい未来を約束しているようでした。科学に信頼してさえいれば大丈夫、人は幸せになれるのだと。

21世紀に入って20年近くがたち、今でこそ科学万能が幻想だったと考える人が増えてきましたが、それでも多くの人は今も科学

万能のイメージを抱き続けているのではないのでしょうか。1990年にはバブルがはじけて景気が後退し、2011年の東日本大震災に伴う原発事故は科学不信をもたらしました。

科学万能主義とは、科学が本来あるべき領域を超えて過信され、「科学によってすべてが解決され、明るい未来が約束されている」という思い込みであり、人間のおごりだったと言えるのではないのでしょうか。

こういうことを言うとはよく誤解

されているのは、科学を否定しているのかということです。私が言いたいのは科学の否定ではなく、科学は善にも悪にもなりうるもので、それを運用する人の倫理が問われるということです。人は科学万能の風潮に乗っかって倫理観の^{たが}籠^{ゆる}が緩んでしまったのではないのでしょうか。

20世紀はすべてのものが進歩していくように見えました。科学技術がめざましい発展を遂げ、スペンサーが提唱した社会進化論の通りに社会も発展し、ダーウィン

の進化論の通りに生物も進化してきたのだと。スペンサーが用いた適者生存ということばをダーウィンも取り入れ、適者生存こそ自然の理だと伝えました。ですから進化論を教えられた多くの人が、自分は適者になって勝ち残らなければと考えるようになったのも当然のことでしょう。

科学のパラダイム

進化論を信じた人の中には教会でもそれを教えました。米国の石油王と呼ばれたジョン・D・ロックフェラーは、日曜学校で次のように語りました。

巨大ビジネスが成長したのはただ最適者の生存ということです。たとえば、『アメリカンビューティー（バラ）』は、小さいうちにいくつもの蕾を摘み取って犠牲にすることで、大輪の香り豊かな花を咲かせ、所有者に喜びをもたらすことができます。ですから、ビジネスでもそうすることは邪悪な傾向ではありません。これはただ、自然の法則と神の法則を実践しただけなのです。¹

ロックフェラーは進化論も適者生存も自然の法則であり神の法則だと主張することでビジネス界の弱肉強食を正当化したのです。

しかしこれらは、実際には創造主の法則でも知恵でもなく、人が幻想した法則であり人の知恵に過ぎなかったのです。

バラの花は自然の状態では勝手

に蕾が落ちることはありません。大輪の花を咲かせるために人為的にそれを摘むわけです。それ自体は悪いことではありませんが、それを人の社会に当てはめるなら、大事なものを、心を失ってしまう危険が伴います。科学万能の時代は、物質的發展と富を追求する一方、心を置き忘れた時代と言い換えることもできるでしょう。

私もそういう風潮の中で育ちましたが、カリフォルニア大学で「科学哲学」を学んだことは私に大きな衝撃をもたらしました。当時の私は、進化論こそ信じていません



アメリカンビューティー

でしたが、科学はそれまでに累積された知識をもとに常に発展し続けていくものだと考えていたからです。

しかし実際には、科学もパラダイムという思考の枠に縛られており、パラダイムが変われば、それまでの科学の考え方も一変することを知ったのです。

『科学革命の構造』を著したトマス・クーンは、パラダイムとは**広く人々に受け入れられている**

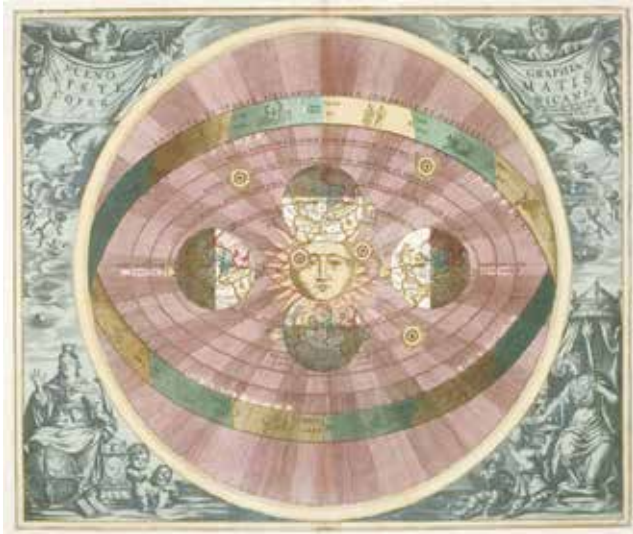
業績で、一定の期間、科学者に、自然に対する問い方と答え方のモデルを与えるもの

と定義しました。このようにパラダイムとは科学を思考する枠を決定する考え方と言えるでしょう。

天文学の世界では、ローマ帝国の時代にプトレマイオスが書いた『アルマゲスト』が天体の理だと信じられ、天動説がヨーロッパで受け入れられていました。しかしコペルニクスが「天体の回転について」を出版して地動説が取って代わりました。また物理学の世界では、ニュートン力学に量子力学が取って代わり、新しいパラダイムとなりました。このように、パラダイムは一定期間、人々から広く受け入れられる思考を支配する枠組で、今後もそれが変わる可能性はいくらでもあるのです。

19世紀は、聖書の記述が自然科学を説明するパラダイムとして西欧で広く受け入れられていました。しかしダーウィンが生物進化論を、スペンサーが社会進化論を宣べ伝えた結果、20世紀になるとだんだん進化論が科学全体を説明する上でのパラダイムとして浸透していったのです。現在でも多くの科学者は進化論をパラダイムとして研究を続けています。

問題は、進化を目撃した人は誰もいないということです。魚類が両生類に、両生類が爬虫類に、爬虫類が鳥類や哺乳類になる過程を誰も観察していませんが信じられているのです。2012年にノーベ



← 地動説

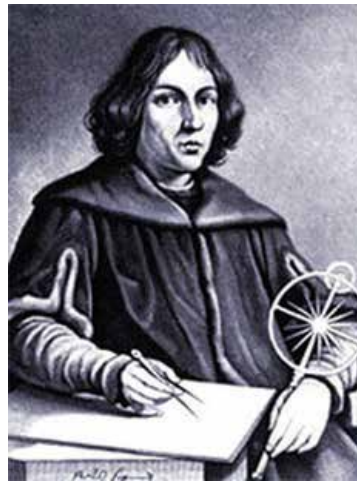
ル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥博士が著書の中で、

なぜなら、「進化論」はまだ誰にも証明されていないからです。なぜか日本人は、人間はみんな猿から進化したと信じていますが、証明はされていない。・・・そのうち、ダーウィンの『進化論』は間違いだった。ということになるかもしれません。」³

と述べています。私たちはこのことばの意味をよく考える必要があるのではないのでしょうか。

聖書は創世記にあるように天地が創造されたことを教えています。進化論というパラダイムがたとえ多くの人に支持されていても、それで進化論は真理だということではありません。これは聖書のパラダイムとは全く違うもので、山中博士が「間違いだった。ということになるかもしれません。」と述べているものなのです。

今日、進化論に基づいて考え出されてきた多くの仮説が現実と乖離していることがわかってきてい



コペルニクス (1473-1543)

ます。例えば、森林は最初裸地から始まって植物が適者生存をくぐり抜けて最終的に森林として形成されると教えられてきましたが、実際には、森林の植物や菌類が全体として互いに協力しあって共存していることが観測されています。(ニュースレター 22号参照)

聖書のローマ 1:20 に

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる。

とあるように、森林を見れば創造

主の本性は適者生存（弱肉強食）ではなく協力と共存なのです。人も適者生存で競争して勝ち残ることを目指す代わりに創造主のかたちを受けた者として協力と共存を目指すことが創造主に喜ばれることではないでしょうか。

土台となる知恵

聖書の箴言 4:7 に

知恵の初めに、知恵を得よ。

とあります。

ここには2つの知恵が語られています。最初の知恵はパラダイムとなる知恵で、人はそれに基づいてすべての知恵を得ます。聖書の知恵に基づいてすべての知恵を得るのか、進化論の知恵に基づいてすべての知恵を得るのかで、得る知恵は全く変わってしまいます。私たちが心に刻んでおくべきことは、進化論をパラダイムとした知恵と聖書をパラダイムとした知恵が相容れないのは当然だということです。そして聖書の知恵を土台としてすべてを考え始めることこそ、正しい知恵を得、創造主に喜ばれることだと確信するのです。

引用文献・参考文献

1. Hofstadter, R. "Social Darwinism in American Thought" George Braziller; New York. 1959年 p.45)
2. トマス・クーン『科学革命の構造』中山茂訳、みすず書房 1971年
3. 山中伸弥・益川敏英『大発見の思考法』文藝春秋、1911年 p.186

「創造を伝える働き人養成講座」参加者の声

第五回 伊豆高原講座参加 越川澄子 創造論を伝えよう

4月からのCS分級で男の子ばかりの担当に決まった時、私は「創造論を伝えよう」と心に決めました。

それは私が初めて創造論を知った時、「進化論よりも科学的だ！」と感動し、「この創造論を

知れば自殺者数は減る」と思ったからです。(因みに2016年の10代の子どもの自殺者数は320名、15才～19才の死因のトップは自殺です。)

創造論で、自分は主によって命与えられ生かされているのだと知ります。その為10代の内に伝える必要性を以前から感じていまし

た。そんな中「養成講座」があるのを知って参加しました。

目の前に広がる伊豆のオーシャンビューと「創造論」というスケールの大きい内容で、束縛感もなく改めて主のご計画と愛を感じました。特に印象的だったのは進化論の背後にヒューマニズム思想があり、その背後にサタン崇拝があるのではないかと実感し、子ども達をなんとかしてでもサタンの手から守らねばならないと一人の親として、またCS教師の一人として強く感じました。

養成講座によって多くのヒントを得て現在、中学生を含め5人の男の子達と「創造論」を学んでいます。実験をしたり科学的な視点で聖書を学んだり、子ども達が耳を傾けてくれて感謝です。

創造論のイベント 2017

お申し込みお問い合わせは
ジェネシスジャパンまで

■創造を伝える働き人養成講座

第9回 2017/8/7(月)～9(水)
@軽井沢(長野県)

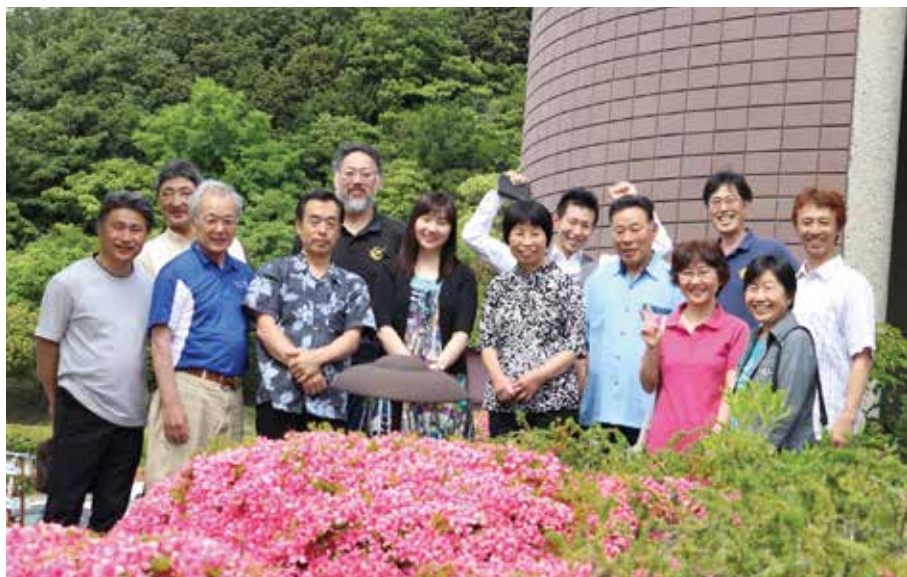
第10回 2017/9/5(火)～7(木)
@南紀白浜(和歌山県)

第11回 2017/11/23(木)～25(土)
@シオン錦秋湖(岩手県)

■ジェネシスジャパン 秋の創造セミナー

2017/10/11(水)～13(金)
@長野県 ホテルグリーンプラザ白馬

講師：宇佐神正海・宇佐神実・山本哲也
*ご参加をお待ちしています♪



「創造を伝える働き人養成講座」@淡路島

先日の淡路島での創造論のセミナーに参加させていただき、ありがとうございました。本当に良い学びになりました。

未信者の科学者は自然から多くの知恵を得て、今日のテクノロジーに応用しているのに、彼らは神を賛美することはないのだということ。また反対に、クリスチャンは神を賛美するのに、自然の中にどんなに神の知恵がある

のかということについては、この世の人よりも実は知らないということに気がきました。もっと神様の創造の知恵の素晴らしさを知って、感動をもって賛美し礼拝を捧げたいと思いました。

帰ってから主人に分ち合い、これから教会でも創造論を教えていかななくてはね、という話になりました。

ユースの働きでも、創造論のテーマで教えることが沢山ありますね。しっかりとしたクリスチャンとしてのアイデンティティを育てていけるように、主の助けを祈っていきます。

第八回 淡路島講座参加 野口友代 創造の知恵の素晴らしさ